

地域の
とりくみ

相内第一町内会が防災を学ぶ研修会を開催

12月12日、相内第一町内会（三和金春会長）が基幹集落センターで防災に関する研修会を開催し、住民の防災意識の向上を図りました。研修会では参加者が実際に段ボールベッドの組み立てを行ったほか、救急蘇生やAEDの使用方法を確認していました。

今回の研修会は小学生から80代まで約30人が参加。三和会長のあいさつの後、防災士の資格を持つ柏谷祐美子さんが講話を行い「災害時に学校に避難しよ

うとしても教職員が被災し対応できない場合があるため、日頃から学校と連携を深める必要がある。また、避難所を開設する際、きめ細かなことは女性も入って検討しなければならない」と呼び掛けました。

成田武司副会長は「今回で4回目の研修となる。市浦には6自主防災組織があるが、相内地区は相内第一町内会にしかない。住民の防災意識向上を図る市浦のモデルになれば」と話しました。



段ボールベッドを作る参加者たち



防災管理課職員が救急蘇生の方法を説明

「段ボールベッドは優れた遮断性を持っている!？」

段ボールベッドを避難所で利用する最大のメリットは、何といっても「遮断性」だよ。段ボールは空気の層でできているため温かく、床からの冷気を遮断するんだ。床に直接寝る雑魚寝と段ボールベッド利用時とでは、体感温度が10度も違うみたいだよ！でもやっぱり、災害のない安心・安全な生活を送るのが一番だね。



大塚製薬が小・中学校に災害対応型自販機を設置

大塚製薬株式会社は、本市との間で締結した包括連携協定による取り組みの一環として、緊急時開放備蓄型自動販売機を、希望する4校（三好小・いずみ小・五三中・五四中）に設置しました。

自販機は、停電の際でも商品を手動で取り出すことができ、必要に応じて避難した方に無償で提供することができます。また、部活動や体育施設を利用する一般の方々の熱中症対策としても利用できます。

12月15日に五所川原第三中学校で行われたお披露目では、同社青森出張所の平野真之所長が「今後も市民の方が健やかに過ごせるよう協力していきたい」と話しました。



設置された自販機と平野所長（右から2人目）